

日本 萬歳 百撰 百笑

○危険綱渡り 骨皮道人

彼の露西亜の弱い癖は日本の強國を向ふて止むを宣はし  
 瘡も無いと思つて居るが、此節ぢや、餘り

剣香を命ダケの藝をして居る。夫は陸海軍の  
 綱渡りと云ふので、先づ内幕

を打負て、古銃砲の  
 二束三本、毀れ軍艦

の帆柱へ命の危綱と

引張る、

其上で溜

息を突き、あぐら

踏む固

舞をするの、

何しろあつちの當にあつちの、アヤヤの死體物、お買ふ下ハ

いろまの蒼の向ふ水と来て居る、いふ下面の皮の厚さ、目先ハ利が

足元ハ武乱散、よ一件、此担を満ちて出ま、お買ふ下ハ一生

懸命ハ無鉄砲を、お買ふ下ハ、槍を振廻して、怪面、お買ふ下ハ、板下

綱渡りをして居る、お買ふ下ハ、其様馬鹿、お買ふ下ハ、人、お買ふ下ハ、喰

行、お買ふ下ハ、お買ふ下ハ、栗、お買ふ下ハ、喰、お買ふ下ハ、居る。

